

第3回名古屋三河道路有識者委員会

1. 日時 令和6年12月9日(月) 16:00~17:15
2. 場所 アイリス愛知 中会議室サフラン1・2
3. 出席委員[敬称略 50音順(委員長を除く)]

なかむら	ひでき	
中村	英樹	名古屋大学大学院環境学研究科 教授(委員長)
おかだ	やすあき	
岡田	恭明	名城大学大学院理工学研究科 教授
かとう	よしと	
加藤	義人	岐阜大学工学部 客員教授
さとう	くみ	
佐藤	久美	名古屋国際工科専門職大学工科学部 教授
すずき	こうじ	
鈴木	弘司	名古屋工業大学大学院工学研究科 教授
ねもと	けいじ	
根本	恵司	一般社団法人中部経済連合会 常務理事
みずお	えり	
水尾	衣里	名城大学大学院人間学研究科 教授
みちばやし	かつよし	
道林	克禎	名古屋大学大学院環境学研究科 教授

(欠席)

くらうち	ふみたか	
倉内	文孝	岐阜大学大学院工学研究科 教授

議事概要(委員からの主な意見※)

<委員会の規約について>

(事務局より規約の改正について報告)

<第3回構想段階評価>

◆第2回意見聴取の結果

○(1)~(7)の項目を重視すべき項目としているが、それ以外の項目は重視しないものと誤解を招く恐れがあるため、表現を工夫すべきである。

○IC配置検討において考慮すべきことについて、資料間で表現の整合を取るべきである。

◆対応方針(原案)の検討・自治体への意見照会結果・対応方針(案)のまとめ

○国道23号の渋滞緩和を期待する声が多い。名古屋三河道路ができる

ことにより国道 23 号の交通量がどれくらい減るのかを示していくと良い。

- 対応方針(案)で渋滞緩和に配慮する表現がないため、渋滞緩和に資するルートとして明記すべきである。
- 意見照会で、IC 位置について浸水想定区域を避けてほしい旨の自治体からの回答を踏まえ、対応方針(案)に配慮する旨を追加すると良い。
- ルート比較の「自然環境への影響」で B ルートは「田園地域を通過する区間長が最も長く、自然環境への影響が懸念される」とあるため、「自然環境への影響が最小となる工夫をしていくこと」を対応方針(案)で追加すべきである。
- 「構想段階評価後、環境への影響を注視しつつ進める」など付け加えると望ましい。
- B 案を選ぶ説得性が高くなるよう、本地域の特徴である「モノづくりなどの地域の産業が発達している」ことを追記すると良い。
- 碧南市等の三河湾地域は、発酵文化の関連で観光に力を入れている地域であり、名古屋三河道路ができることで、三河地方全体の発酵文化拠点の周遊、産業支援が期待されるため、「食のルート」という観点も加えると、関心が高まると考えられる。
- 道路の階層性を意識すると、現道との接続に考慮が必要である。
- 名古屋三河道路は名古屋港の効果の方が大きいと考えられるため名古屋港を強調すべきである。また、この地域の渋滞は、周辺住民にとって切実であり、それを解決することが、交通安全にもつながることを示すべきである。

(※欠席の委員については、個別に意見・助言を確認)